

※在籍期間は長善館の在籍期間のこと。



Takenosuke Takahashi
高橋 竹之介

勤王家・教育者
在籍期間：1862年～1866年

戊辰戦争では、長善館二代目館主・
愼軒らと居之隊を結成。新政府軍の先
導役として各戦線で活躍しました。戦
後は、長岡で誠意塾を開き、20年間で約600人の人材を
輩出。「北越治水策」をまとめ、山縣有朋らに献策するな
ど一生涯を教育と治水対策に尽力しました。

北越治水策とは？

越後平野の治水に関する論
文。大河津分水や関屋分水の整
備の必要性を説くと同時に、水
源となる山林の管理や新潟港の
整備などの必要性にまで言及し
ています。



(弥彦神社所蔵)



Kanichi Otake
大竹 貫一

政治家
在籍期間：
1871年～1872年

県議会議員を7年、衆議
院議員を34年務めました。
地元・中之島は川に囲まれ、
幼い頃から洪水の惨状を目
の当たりにしてきた経験か
ら県内のさまざまな河川改
修事業に尽力しました。

特に、横田切れの後には
政府を動かすべく、不眠不
休で活動するなど、治水と
水害処理に精力と財産を注
ぎました。



Samon Hagino
萩野 左門

政治家
在籍期間：
1862年～1870年

長善館に8年間在籍し、
卒業後も長善館の相談役と
して長期間にわたり運営に
力を発揮しました。また、
28歳の若さで県議会議員
に当選。衆議院議員も15
年間努めました。

大河津分水建設の実現の
ために動いただけでなく、
新川（現新潟市西区内野）
の掘削・改良にも大きく貢
献しました。



Usaburo Oyanagi
小柳 卯三郎

政治家
在籍期間：
1856年～1858年

県議会議員を12年間、
衆議院議員も務めました。
この間、中断している分水
工事の再興を請願する有志
者を援助しました。

横田切れ後、萩野左門と
ともに上京し、政府の要人
に建設を要望しました。

また、新潟県治水会を組
織して中心的に活躍。分水
工事決定後も幹部として治
水活動に貢献しました。



Masanao Washio
鷺尾 政直

土木技術者
在籍期間：
1853年～1854年

大河津分水の1次工事で
は用弁係を務めた後、民部
省で10年間、土木事業に
従事し、測量などの土木技
術を身に付けました。

また、萩野左門や小柳卯
三郎などと「信濃川治水会
社」を設立し、民力の重要
性を念頭に治水運動を推
進。横田切れ以降、同志と
ともにさらに精力的に工事
復活を訴えました。

一 医学の道で活躍した門下生 一

長善館の門下生の中には、医学の道で大きな功
績を収めた者もいました。長谷川泰もその一人
です。わずかな学費で医学を学ぶことができる、
医学試験対策の予備校として「済生学舎」を創設。
野口英世もここで学んだとされています。

また、1898（明治31）年に内務省衛生局長（現
厚生労働大臣）に就任。「下水道法」を成立させ
るなど、衛生環境の整備に貢献し、弱者の救済
のために手腕を発揮しました。

活躍の根底には、信濃川の洪水で苦しむ故郷
の人々への思いや、長善館での教えがあったは
ずです。

2013年、生地の長岡市新組地区に銅像が建立。
銅像の視線は、長善館の方角を見据えています。



Tai Hasegawa
長谷川 泰

医学者
在籍期間：
1856年～1859年

洪水に苦しむ人々を救うため 長善館での学びを実践

COLUMN

1,000万人ってどのくらい？

延べ1,000万人が従事した大河津分水の建設
工事。当時の新潟県の人口は約180万人、日
本の人口は約4,800万人でした。比較してみ
ると、いかに大きな工事だったかがわかりますね。

また、工事により運び出された土砂は約
2,880万㎡で、その土砂を積んだダンプカーを
並べると地球を一周する長さになるそうです。



▲大河津分水建設工事の様子

暴れ川・信濃川
日本一の長さを誇り、越後
平野に恵みをもたらす信濃川
ですが、大河津分水のなかつ
た江戸時代から明治時代に
は、3年に1度の頻度で洪水・
氾濫を繰り返していました。
信濃川の水を日本海に流す
大河津分水の建設を求める要
望活動は、約150年間続き、
念願かなって1870（明治
3）年に工事着手となりまし
たが、5年後には工事が中止
となってしまいました。

犠牲者1200人

工事の中止後、繰り返し返さ
れる洪水の中でも被害が甚大
だったのが、1896（明治
29）年の大洪水「横田切れ」で
した。これにより、越後平野
一帯が泥の海と化し、農作物
は全滅。伝染病も蔓延し、洪
水による死者と併せて犠牲者
は1200人を超えました。
このような惨状を受け、長
善館の門下生が活躍を見せま
す。彼らは、横田切れの前か
ら大河津分水建設に向けた活
動を行っていましたが、これ
をきっかけに、さらに大きく
動き出しました。

奔走した門下生たち

高橋竹之介は横田切れの翌
年、「北越治水策」を中央政
府を担っていた山縣有朋や松
方正義に提出しました。北越
戊辰戦争の際、山縣とは同じ
官軍として活動し、関係を深
めていたとも考えられています。
北越治水策では、大河津
分水の建設はもちろん、関屋
分水の建設なども進め、新潟
港の機能を強化する国家プロ
ジェクトとして行うべきだと
述べました。

また、工事に直接関わる土
木技術者の立場として鷺尾政
直が、政治家として大竹貫一
や萩野左門、小柳卯三郎らが
大河津分水の建設を訴え続け
ました。

1000万人が建設に従事

1909（明治42）年に大
河津分水の工事が再開。延べ
1000万人が建設に従事し
たこの工事は、当時の新聞で
「東洋一の大工事」と評され
ました。
建設が実現し、現代の豊か
な生活があるのは、人々の暮
らしを守ろうとした先人たち
のおかげといえます。